

短大特任教員教育研究業績書

平成30年 5月6日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性 別
望月 雅和	もちづき まさかず	保育学科 通信教育課程	講師	男

担 当 科 目 名

教育相談

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成12年(2000年) 3月	東京国際大学人間社会学部福祉心理学卒業	学士(福祉心理学)
平成15年(2003年) 3月	文京学院大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了	修士(経営学)
平成19年(2007年) 3月	慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻研究生修了	

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容
日本心理職協会	平成14年1月～現在	心理職職能団体の日本認定心理士会にて、設立世話人を経て評議員を現在まで。平成27年4月より同会が日本心理職協会と名称変更、専務理事、事業企画・教育委員会委員長として、現在に至る
LEC 総研第一研究所	平成17年10月 ～平成17年10月	業務委託により保育者養成の教材開発に従事
医療福祉カレッジ(総合学園ヒューマンアカデミー)	平成18年4月 ～平成19年6月	医療福祉カレッジ心理カウンセリング専攻(総合学園ヒューマンアカデミー内) 非常勤講師(「教育心理学」等)
東京大学 先端科学技術研究センター	平成20年4月 ～現在	東京大学先端科学技術研究センター交流研究員(「バリアフリー分野」、平成25年4月から協力研究員として学術研究に従事、現在に至る)
千葉経済大学短期大学部	平成21年4月 ～現在	千葉経済大学短期大学部こども学科非常勤講師(4～9月の着任で保育者養成分野にて「社会福祉」を担当して、現在に至る)
早稲田大学	平成21年7月 ～現在	早稲田大学総合研究機構プロジェクト研究所客員研究員(ジェンダー研究所内、平成23年4月から招聘研究員として、現在に至る)
現代QOL研究所	平成26年2月 ～現在	現代QOL研究所主席研究員/教育研究局長として、教育研究の業務に携わり現在に至る。
東京学芸大学	平成27年6月 ～平成27年6月	東京学芸大学特命講師/男女共同参画支援室コーディネーターとして着任して業務に関わる。
小田原短期大学	平成28年4月 ～現在	小田原短期大学保育学科通信教育課程講師として、「教育相談」を担当して現在に至る。

所 属 学 会 等		
名 称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)
日本応用心理学会	平成 14 年 5 月	日本応用心理学会正会員、現在に至る
日本経営倫理学会	平成 17 年 1 月	日本経営倫理学会正会員、現在に至る
日本教育学会	平成 20 年 7 月	日本教育学会正会員、現在に至る
日本心理学会	平成 21 年 4 月	日本心理学会正会員、現在に至る
日本子育て学会	平成 23 年 2 月	日本子育て学会正会員、現在に至る
日本保育学会	平成 23 年 7 月	日本保育学会正会員、現在に至る
日本子育て学会	平成 24 年 4 月	日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会副委員長 (平成 27 年 6 月まで)
現代 QOL 学会	平成 24 年 8 月	現代 QOL 学会正会員、現在に至る。
日本子育て学会	平成 24 年 9 月	日本子育て学会「保育者養成の学際的研究」世話役(研究プロジェクト推進委員会内)、現在に至る
現代 QOL 学会	平成 24 年 11 月	現代 QOL 学会常任理事、現在に至る
日本心理職協会	平成 27 年 4 月	日本心理職協会専務理事、現在に至る
日本心理職協会	平成 27 年 4 月	日本心理職協会事業企画・教育委員会委員長、現在に至る
日本子育て学会	平成 27 年 6 月	日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会委員長、現在に至る

社 会 活 動 等		
名 称	活動期間	活 動 内 容
日本心理職協会	平成 14 年 1 月～現在	日本認定心理士会にて、設立世話人を経て評議員を現在まで務めて、心理職能団体の事業企画、教育、対外社会活動を推進する。同会名称変更の後、平成 27 年 4 月より日本心理職協会専務理事、事業企画・教育委員会委員長として、現在に至る

担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格 ・ 免 許 等		
名 称	取得年月	取 得 機 関
社会福祉主事任用資格	平成 12 年 3 月	厚生労働省指定科目、東京国大大学人間社会学部福祉心理学科
児童指導員任用資格	平成 12 年 3 月	厚生労働省指定科目、東京国際大学人間社会学部福祉心理学科
日本心理学会認定心理士 (第 4423 号)	平成 12 年 3 月	社団法人日本心理学会
日本応用心理学会認定応用心理士 (第 238 号)	平成 17 年 1 月	日本応用心理学会

研 究 実 績 に 関 す る 事 項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 戦前婦人労働論文資料集成第 4 巻	共著	平成 14 年 7 月-11 月	クレス出版	労働省婦人少年局関係者等との共同研究成果。赤松良子・原田冴子監修、西村小夜子・上田晴子・福沢恵子・望月雅和・石津澄子による共同研究により、働く女性や母子に関する論文を集成、編集・解説を執筆した。特に筆者は、第 4 巻にある母子、乳幼児、福祉、教育等の領域の論文編纂及び研究論文の解説を執筆した。(pp. 5-17)

山田わか 生と愛の条件 ——ケアと暴 力・産み育て・国 家	編著	平成 30 年 2 月	現代書館	<p>本学術書は、人間と教育の学びのために、事例やケースの学びが可能となるよう、人間の生涯を通じた評伝的な書物である。とりわけ、山田わかという人物をケースに焦点を当て、ケアと暴力、産み育て、国家をめぐる人間形成が活写され批評されている。</p> <p>監修・解説に能智正博（東京大学大学院／臨床心理学・質的心理学）を迎え、各領域の専門家が多様な学びができるように配慮してある。全体の編集に加えて執筆は、序章「愛の飛翔と切断：人間と教育を学ぶために」、第6章「愛とケアについて：体験による学びと実践のレッスン」を担った。望月雅和編著、能智正博監修・解説、大友りお、櫻坂英子、森脇健介、弓削尚子共著である。（pp. 7-23, pp. 216-242）</p>
子育てとケアの 原理	編著	平成 30 年 4 月	北樹出版	<p>子育てとケアをテーマとして、教育原理、教育相談、社会福祉から臨床心理、教育制度論等に至るまでの学際的な領域をカバーする大学等の教科書・参考書である。学習指導要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領等の改訂を踏まえて、今日、求められている総合的な学びに込められることを目指して編著者を務めた。既に、平成30年度の大学テキストとして採択済みである。</p> <p>執筆としては、全体の編集と共に執筆は、「はじめに」、第7章「教育とケアの学びへ：実践のための探求と省察」を担った。望月雅和編著、西村美東士・金高茂昭・安部芳絵・吉田直哉・秋山展子・森脇健介共著。（pp. 3-4, pp. 167-189）</p>
(学術論文) 社会福祉及び母 性に関する一考 察：働く女性と子 育ての思想史を 端緒として (研究論文・紀 要)	単著	平成 22 年 4 月	千葉経済大学短期 大学部研究紀要 第6号	<p>本研究は、社会福祉及び、母性の変容について、とりわけ働く女性の子育てに焦点をあて鳥瞰し一考察を加えることにより、萌芽的である関連研究へ、一つの示唆を得ようとしたものである。（pp. 95-106）</p>
戦後日本におけ る働く女性と子 育てをめぐる一 考察：労働省婦 人少年局の展開 を契機として (査読つき学会 論文)	単著	平成 23 年 3 月	日本経営倫理学会 誌 第18号	<p>本研究は、福祉分野で重要な視点となっている働く女性や子育ての公共政策の分析に関連し、政府の独立機関として、わが国で史上初めて働く女性を対象にした労働省婦人少年局の展開を契機として、戦後日本における働く女性と子育てをめぐる一考察を加えたものである。本研究では、戦後の公共性の変容の分析に踏み込みながら、新たに働く女性、子育てに関する再解釈をして考察を加えた。（pp. 223-233）</p>
母子福祉の理念 と対人援助原理 (研究論文・紀 要)	単著	平成 24 年 4 月	千葉経済大学短期 大学部研究紀要 第8号	<p>母子福祉理念と対人援助の原理に関する主題とし、カウンセリングや社会福祉の今日的な理論、母子福祉の変容を踏まえて、対人援助原理に関する考察を加えた。（pp. 81-94）</p>

福祉教育における対人援助原理：省察的実践のために (研究論文・紀要)	単著	平成 25 年 4 月	千葉経済大学短期 大学部研究紀要 第 9 号	福祉教育における対人援助の原理を主題とし、とりわけ現実へと相關する省察的な実践について、その理論と実践、思想に関する考察をおこなった。(pp. 55-67)
保育者支援のできる保育者養成に関する研究：保育者養成校の学生に対する意識調査から (査読つき学会論文)	共著	平成 27 年 3 月	子育て研究(日本子育て学会)	保育者養成校における保育者支援に焦点をあて、とりわけ保育者支援について、学生に対する意識調査から研究をおこなった学会の原著論文である。本研究は、学会の研究プロジェクト推進委員会内で世話役の一人を務めている「保育者養成の学際的研究」の成果の一部であり、加賀谷崇文・高橋貴志・寺澤美彦・望月雅和による研究である。(pp. 30-39)
ケアの専門職教育における保育の原理と実践の学び：山田わかの人間形成論を契機として (査読つき学会論文)	単著	平成 29 年 2 月	日本経営倫理学会 誌 第 24 号	本研究は、ケアと子育ての専門職教育における原理分野で重要な視点である実践の学びについて、人物をケースとした人間形成論を契機として研究したものである。筆者は本学会で、当該の実践と原理的な研究をして、既に「ケアの専門職教育と活動による学びの考察」、加えて、日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の推薦を受けて「ケアの専門職教育における体験と省察的実践のレッスン：山田わかの人間形成論を契機として」の研究発表をしていた。 本研究ではこれら研究発表をベースとし、より展開的に母子支援等に関わった山田わかの人間形成にフォーカスし、近年のケアの専門職教育、子育て分野で不可欠ともいえる、体験的な学びや経験を省察的に捉え直して考察を加えたものである。(pp. 309-322)
(その他) 母性焦点化における女性労働論考 (研究発表)	単著	平成 14 年 9 月	日本応用心理学会 第 69 回大会発表論 文集	働く母親の変化から、今日の家族の形態について、とりわけ母性に焦点を当てた研究である。母親に関する論考の重要性を指摘し、既に近代期以降、女性労働にも影響を与える重大な問題として、母性関連が盛んに研究対象となってきたことを論じた。こうした論点から、現代的な働く女性と母性に関する論考をした。(p.112)
弱さの風景：教育・福祉・人権の窓から (シンポジウム)	共著	平成 18 年 9 月	日本応用心理学会 第 73 回大会発表論 文集	学会大会にて、シンポジウムが採用され、教育、福祉、人権(法)の学際的な企画をして開催された。話題提供者は、柏木恭典、鈴木きよと、谷口洋幸、佃未音、指定討論者は鶴岡大輔、諸橋泰樹、企画と司会者は、望月雅和が務めた。 人間として、重大な影響のある教育・福祉・人権の享受が、専門的知識や手法を身につけて現場や諸領域に関わるとき、不当に侵害されているのを見ることがある。「弱さ」をキーワードに、参加者が学際的な論議をしたものである。(p.7)

<p>社会福祉の変容とジェンダーに関する一考察：社会福祉専門職教育への示唆 (研究発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 20 年 8 月</p>	<p>日本教育学会第 67 回大会発表要旨収録</p>	<p>日本教育学会大会において、社会福祉の変容を考察しながら、特に、ケアの専門職教育における示唆を探った。現在、専門職といわれる子育て/保育といった領域は、これまで家庭内部において、母親、母性思想に裏打ちされる形でなされたものが変容し、著しく社会化が促進されてきており、専門職教育のあり方にまで及んでいる。こうした論点からの教育への一考察をしたものである。(pp. 156-157)</p>
<p>福祉と研究の専門化をめぐる対話：社会福祉への架橋について (ワークショップ)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 20 年 9 月</p>	<p>日本応用心理学会第 75 回大会発表論文集</p>	<p>東京大学先端科学技術研究センターの研究者など、福祉、法、心理学等の研究者と共に、社会福祉の理解へ架橋を目指した学術ワークショップ。 企画及び司会者を望月雅和が務めて、話題提供者は、上田一貴、瀬野豪志、高野恵亮、指定討論者は諸橋泰樹が担当した。今日、社会福祉への需要は高まりをみせて、技術的な学術研究の一層の専門化が進んでいる。福祉に関する専門家間の対話の中で、自らの狭義の専門のみならず、社会福祉への探求をしたものである。(p. 10)</p>
<p>さまざまな領域におけるメンタルヘルスの危機と対策 (シンポジウム)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 21 年 9 月</p>	<p>日本心理学会第 73 回大会発表論文集</p>	<p>社団法人日本心理学会大会において、メンタルヘルスの危機と対策について、医療や産業、家族など様々な視点から考えるシンポジウムである。日本心理学会大会における日本認定心理士会企画プログラムであり、河野義明と望月雅和が企画者となった。司会と指定討論者は山口正二、話題提供者は久保田活也、黒岩誠、大熊保彦、大木桃代、指定討論者は沢宮容子である。(p. 33)</p>
<p>人と人をつなぐ (シンポジウム)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 22 年 9 月</p>	<p>日本心理学会第 74 回大会発表論文集</p>	<p>社団法人日本心理学会大会にて、人と人のつながりに関する心理原理的な論議を趣旨としたシンポジウムである。日本認定心理士会の公開プログラムとして採用された。山口正二、望月雅和が企画者を務めて、司会者は河野義章、話題提供者は、吉川栄子、阿子島茂美、田上不二夫、指定討論者は大坊郁夫である。(p. 35)</p>
<p>日本における働く女性と子育ての思潮をめぐる論考：「人権・雇用・経営倫理—21 世紀社会システムの展望」に寄せて (研究発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 22 年 10 月</p>	<p>第 18 回研究発表大会予稿集 (日本経営倫理学会)</p>	<p>本研究発表は、日本経営倫理学会の第 18 回研究発表大会において、統一論題であった「人権・雇用・経営倫理—21 世紀社会システムの展望」に寄せて、特に、戦後日本の働く女性と子育ての視点をテーマに論じたものである。(pp. 125-127)</p>

ジェンダー・セクシュアリティ研究の多様性 (ワークショップ)	共著	平成 23 年 9 月	日本心理学会第 75 回大会発表論文集	社団法人日本心理学会大会にて公募審査を経て開催されたワークショップであり、主にジェンダーやセクシュアリティの最前線の研究をテーマとし、関係者を一同に集めて研究の多様性を探った企画である。企画者は <u>櫻坂英子</u> 、 <u>望月雅和</u> 、話題提供者は、 <u>青野篤子</u> 、 <u>多賀太</u> 、 <u>大友りお</u> 、 <u>諸橋泰樹</u> 、指定討論者は <u>福富護</u> である。(p. WS47)
現代の家族を考える (シンポジウム)	共著	平成 23 年 9 月	日本心理学会第 75 回大会発表論文集	社団法人日本心理学会大会にて、現代の家族の諸相に焦点を当てて、実践的な家族の問題に関する論点について、日本認定心理士会の公開プログラムとして企画されたものである。現代の家族が抱える問題とその解決策について、論議がなされた。 <u>河野義章</u> 、 <u>望月雅和</u> による企画、 <u>山口正二</u> による司会、話題提供者は、 <u>尾形和男</u> 、 <u>岩立志津夫</u> 、 <u>片倉昭子</u> 、指定討論者は <u>大村政男</u> 、 <u>河野義章</u> が務めた。(p. 36)
カウンセリングへの期待 (フォーラム)	共著	平成 24 年 9 月	日本心理学会第 76 回大会発表論文集	社団法人日本心理学会大会にて、日本認定心理士会の公開プログラムとして企画されたものである。特にカウンセリングについて、論議がなされた。 <u>河野義章</u> 、 <u>望月雅和</u> による企画、 <u>山口正二</u> による司会、話題提供者は、 <u>岡田弘</u> 、 <u>黒沢幸子</u> 、 <u>岡田佳詠</u> 、指定討論者は <u>田上不二夫</u> が務めた。(p. 41)
ケアの専門職教育と活動による学びの考察 (研究発表)	単著	平成 25 年 6 月	第 21 回研究発表大会予稿集 (日本経営倫理学会)	本研究発表は、日本経営倫理学会の第 19 回研究発表大会において、人口動態や産業構造の変化に寄せて、とりわけ重要になると思われる分野の一つ、ケアの専門職教育と実践的な活動について、論じたものである。(pp. 108-112)
保育者養成の視点から見る子育て (シンポジウム)	共著	平成 25 年 8 月	日本子育て学会第 5 回大会発表論文集	日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会内の「保育者養成の学際的研究」の研究成果の一部である。日本子育て学会第 5 回における <u>寺澤美彦</u> ・ <u>望月雅和</u> による企画、 <u>高橋貴志</u> の司会、 <u>加賀谷崇文</u> 、 <u>伊能恵子</u> 、 <u>西川美帆</u> による話題提供、指定討論者に <u>大竹智</u> により開催された。(p. 33)
保育者を目指す学生の子育て・保育者支援に対する意識 (研究発表)	共著	平成 25 年 9 月	全国保育士養成協議会第 52 回研究大会研究発表論文集 (全国保育士養成協議会)	日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会内の「保育者養成の学際的研究」の研究成果の一部である。全国保育士養成協議会研究発表大会における、 <u>加賀谷崇文</u> ・ <u>高橋貴志</u> ・ <u>寺澤美彦</u> ・ <u>望月雅和</u> によるもの。その後も保育者養成をテーマとして共同研究が推進されている。(pp. 340-341)

ケアの専門職教育における体験と省察的実践のレッスン: 山田わかの人間形成論を契機として (研究発表/日本経営倫理学会理念哲学部会推薦)	単著	平成 26 年 6 月	第 22 回研究発表大会予稿集 (日本経営倫理学会)	本研究発表は、日本経営倫理学会の第 22 回研究発表大会において、日本経営倫理学会理念哲学部会推薦を得て発表されたものである。保育園や母子寮の創設にも関わり、女性論や母性の論客でもある山田わかについて、とりわけ人間形成論からケアの専門職教育における体験と省察的実践について論じたものである。 (pp. 1-5)
対人援助の展望と QOL (フォーラム)	共著	平成 26 年 9 月	現代 QOL 学会第 2 回学術大会発表抄録集	現代 QOL 学会の付属機関として設置された現代 QOL 研究所設置を記念として開催された記念フォーラムである。 対人援助や人間関係論の構想について、副所長で日本カウンセリング学会理事長の山口正二と共に企画し、望月雅和が企画と司会を務める。 シンポジストは各界から、東京大学大学病院心療内科長/東京大学准教授の吉内一浩、筑波大学教授の沢宮容子、高知大学准教授の鹿島真弓が務めた。(p. 7)
教育とケアのために: 学際的な支援への招待 (フォーラム)	共著	平成 26 年 6 月	日本子育て学会第 6 回大会発表論文集	日本子育て学会第 6 回大会における学術フォーラムであり、教育とケアをテーマとして、特に学際的な支援をフォーカスしたものである。望月雅和が司会と企画、山蔦圭輔、上野正道、諸橋泰樹のシンポジスト、櫻坂英子による話題提供により開催されたものである。(p. 35)
保育者を目指す学生の保育に対する理解と保育者支援への不安との関連 (研究発表)	共著	平成 26 年 11 月	日本子育て学会第 6 回大会発表論文集	日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会内の「保育者養成の学際的研究」の研究成果の一部である。日本子育て学会第 6 回大会における、加賀谷崇文・高橋貴志・寺澤美彦・望月雅和によるもの。大学・短期大学の保育者養成課程の質の向上を目指した調査研究で、その後も保育者養成をテーマとして共同研究が推進されている。(pp. 92-93)
山川菊栄著、鈴木裕子解説『おんな二代の記』(岩波書店、2014 年): 母と子の自由な学びへ (書評)	単著	平成 27 年 2 月	ジェンダー研究 21 vol. 4 (早稲田大学ジェンダー研究所)	早稲田大学のジェンダー研究所紀要の編集委員会から依頼を受けて執筆された原稿で、労働省婦人少年局初代局長などを勤めた山川菊栄の母と子をめぐる自叙伝の書評である。特に、「母と子の自由な学びへ」をテーマとして、本書の意義を論考した。(pp. 69-76)
子育てひろばの利用者における子育て肯定感の検証: 利用者視点に基づく保育者養成のあり方 (研究発表)	共著	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会発表論文集	日本子育て学会の「保育者養成の学際的研究」の展開的研究として、社団法人日本心理学会において共同研究の成果を発表した。望月雅和、齊藤勇紀、菱田博之、加藤博己、及川直樹、寺澤美彦、伊能恵子、加賀谷崇文の共同成果である。とりわけ、地域の子育て広場の利用者の肯定感を検証し、今後の保育者養成校への示唆を得ることを目的とした。(p. 5)

ジェンダーとセクシュアリティ研究の多様性2：ケアの諸相を契機として (シンポジウム)	共著	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会発表論文集	近年のケアの諸相は、家族変容などにより多様化しているが、本企画では、社会病理、障がい者のケアなどを学際的な視点から、ジェンダー・セクシュアリティ変容を踏まえてシンポジウムを開催したものである。社団法人日本心理学会の公募により採択された。企画者は櫻坂英子、望月雅和、話題提供者は碓井真史、武子愛、多賀太、指定討論者は、森永康子、山口正二である。(p. SS (51))
教育と保者養成の将来デザイン (シンポジウム)	共著	平成 27 年 9 月	現代QOL学会第 3 回学術大会プログラ ム	保育者養成と教育をテーマに、本企画では複合的な視座を尊重し、保育の質や評価、地域・子育てひろば、保育原理に至るまでを総合的に論議して探求する場としてのシンポジウムである。企画と司会が望月雅和、連盟企画は加藤博己、寺澤美彦であり、話題提供者が、伊能恵子、齊藤勇紀、菱田博之、吉田直哉、指定討論者は櫻坂英子、加賀谷崇文である。(p.9)
生命の豊かさ／QOLの構想：学際的な連携を求めて (シンポジウム)	共著	平成 27 年 9 月	現代QOL学会第 3 回学術大会プログラ ム	本企画は、教育や対人援助に密接に関わる生活の豊かさ、QOLの構想について、学際的連携を求め企画された。臨床、教育、産業の各分野から話題提供者を招聘した。企画・指定討論者が山口正二、企画と司会は望月雅和、話題提供者は山蔦圭輔、鹿嶋真弓、村山元理である。現代QOL学会の附属機関として設置されている現代QOL研究所の記念シンポジウムとして開催された。(p.7)
保護者支援のできる保育者養成に関する研究：保育士を対象とした調査から (研究発表)	共著	平成 27 年 11 月	日本子育て学会第 7 回大会発表論文集	本研究は日本子育て学会のプロジェクト研究「保育者養成の学際的研究」の一環として継続的に研究をしている成果の一部である。とりわけ保育士養成における保護者支援の視点を含めた調査研究である。加賀谷崇文、高橋貴志、寺澤美彦、望月雅和による共同研究である。(pp. 99-100)
子ども・子育てを支える環境デザインについて：「安全安心」「発達支援」の視点から (シンポジウム)	共著	平成 27 年 11 月	日本子育て学会第 7 回大会発表論文集	本企画は、日本子育て学会対外組織委員会とNPO法人キッズデザイン協議会と共同的に発展した企画であり、子育て支援をめぐり、特に環境や発達支援について、住環境、企業等を含めた実践的な取り組みをケースとして、多様な視点から発表がされたシンポジウムである。企画・司会は高橋貴志、連名企画に加賀谷崇文、話題提供者は、小島岳二、河崎由美子、高橋義則、寺澤美彦、指定討論者は望月雅和が務めた。(p. 35)

<p>教育とケアを構想する (シンポジウム)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 28 年 8 月</p>	<p>現代QOL学会第 4 回学術大会プログラ ム</p>	<p>本企画では教育とケアをテーマに、複合的な視座を尊重し、とりわけ家族、ワーク・ライフ・バランスなどの実証的視点、および、人間がケアをすること、対人援助の原理的視点を探求するシンポジウムである。企画と司会が望月雅和、連盟企画は神山浩幸であり、話題提供者が子育て分野の佐藤千晶、ケアや介護領域の原理分野から日高明、指定討論者は学際的な原理や職業分野の村山元理、心理学領域から櫻坂英子である。(p.10)</p>
<p>豊かな生活の学びへ：臨床相談、家族、経営を契機として (シンポジウム)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 28 年 8 月</p>	<p>現代QOL学会第 4 回学術大会プログラ ム</p>	<p>本企画は、近年重要度の増す領域である臨床相談、家族、経営の分野を契機として、豊かな生活の学びへ向けて、本研究所の理念である学際的な視点から、各界の第一人者を招聘して開催されたものである。企画・指定討論者が山口正二、企画と司会は望月雅和、話題提供者は橋本泰子、尾形和男、村山元理である。現代QOL学会の付属機関として設置されている現代QOL研究所の記念シンポジウムとして開催された。(p.6)</p>
<p>子育て支援を構想する：子育て支援学の構想へ (シンポジウム)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 28 年 11 月</p>	<p>日本子育て学会第 8 回大会プログラム</p>	<p>本企画は、日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会、および、日本子育て学会研究交流委員会の合同による企画で、司会は望月雅和である。子育て支援を構想すること、とりわけ子育て支援学の構想へ向けたシンポジウムである。 シンポジストの研究領域は、心理学の関連分野について国際的にも活躍の研究者に加えて、子どもの非行などに関わる司法福祉の第一人者を招聘し、一般にも開かれたシンポジウムとして企画された。話題提供者が伊藤圭子、村尾泰弘、指定討論者は、学際的な子育て支援学の構築に関わってきた、当学会研究交流委員会委員長の西村美東土、心理学領域の高橋千枝である。(p.16)</p>
<p>メンタルヘルス再考 (特別講演)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 29 年 6 月</p>	<p>現代 QOL 学会 設立 5 周年記念学 術大会プログラ ム・発表抄録集</p>	<p>本特別講演は、メンタルヘルス分野、特にメンタルの訓練の意義を中心に、久保田浩也(メンタルヘルス総合研究所代表)、望月雅和による司会による開催した企画である。「トータル「人間健康」の維持・増進・疾病予防・治療・リハビリ」等の希薄化の問題提起から、心身の訓練や体操等の重要性が指摘された。歴史的な教訓から司馬遼太郎にまで言及されて、人間における訓練の重要性が強調されたものである。(p.9)</p>
<p>教育とケアを構想する(Ⅱ)：教育の原理をめぐって (シンポジウム)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 29 年 6 月</p>	<p>現代 QOL 学会 設立 5 周年記念学 術大会プログラ ム・発表抄録集</p>	<p>本企画は、現代 QOL 学会事業企画委員会主催シンポジウムである。議論の深まりをみせた昨年と同テーマのシンポジウムに続き、展開的に少子高齢化時代において重要となっている「教育とケア」をテーマとし、教育の原理をめ</p>

				<p>ぐって論議を深めたものである。</p> <p>日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会、「教育とケアの学際的研究」の一部としても連動して、関連の出版構想も見据えたシンポジウムである。主に、子育ての制度、学校、家庭、地域社会等を見据えてシンポジウムの企画がなされた。企画者・司会者：望月雅和、企画者：寺澤美彦、神山浩幸、話題提供者：森脇健介秋山展子、指定討論者：櫻坂英子、山口正二である。(p. 17)</p>
新しい時代の臨床・医療と経営：「生活の豊かさ(QOL)」の教育に向けて(シンポジウム)	共著	平成 29 年 6 月	現代 QOL 学会 設立 5 周年記念学術大会プログラム・発表抄録集	<p>本企画は、本学会付属研究機関として設置されている現代 QOL 研究所主催、業務提携団体である日本心理職協会の協賛による記念シンポジウムであり、特に本年は、「新しい時代の臨床・医療と経営」をテーマとし、生活の豊かさ(QOL)、教育相談等の教育へ向けて、本研究所の理念である学際的な視点から、各界の第一線で活動する者や実務家を招聘して開催された企画である。</p> <p>重要なテーマと思われる臨床教育相談、経営の分野を議論の契機として、豊かな生活を探求した。企画者・司会者：望月雅和、話題提供者：橋本泰子、加藤忠、村山元理、指定討論者：山口正二、久保田浩也である。(p. 17)</p>
臨床・相談援助から考える子育て支援学(シンポジウム)	共著	平成 29 年 11 月	日本子育て学会 第 9 回大会プログラム	<p>本企画は、日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会、および、日本子育て学会研究交流委員会の合同による企画で、司会は望月雅和である。「臨床・相談援助」から子育て支援学の構想へ向けたシンポジウムである。</p> <p>シンポジストは、特に我が国で注目されている「発達障害」や保護者支援のテーマから、心理カウンセリング・福祉的なソーシャルワーク援助、そして、これらを踏まえて子育て支援学に関するテーマで話題提供をし、指定討論者と共に議論を深めた企画である。話題提供者：伊藤圭子、話題提供者：金高茂昭、話題提供者：西村美東士、指定討論者：加賀谷崇文である。(p. 15)</p>
その他(表彰等)		平成 3 年 4 月	埼玉ギター協会主催・ジュニアギターオーディション最優秀賞受賞	